

のふたにいでて、二かゝるにおくべし。

〔大上臈御名之事〕一かづらは、いれぬさきには、かみを一とろゆふなり。○中

一げすはまゆつくらす、かもじかけず、わきめあるべからず。

〔甲子夜話 四十九〕コノ七月申或所ニテ樂善坊ニ逢タリ、ソノ時、以前ノ戲場ノコトモ聞タル中カ

ラ是レハ頭ノ當ル所ニ、銅版ヲ首形ニナシテ、髪ヲ云テ、今一般ニ用ユルハ以前ハナシト云タ

ルユヘ、何ツノ頃ヨリ始リタルヤト云ヒタレバ、王子路考ノ頃ヨリト云キ、王子路考トハ、名ハ瀬

ナリ、頃ハ松平、南海、懸意セラ、然レバ未ダ百年ニハ餘ホド足ラザルコトナリ、其前ハト問タレバ、

レシモノナリ、子モ能ク知ル、然レバ未ダ百年ニハ餘ホド足ラザルコトナリ、其前ハト問タレバ、

女形ハ皆地髪ニテ髻ハ用ヒズトゾ、○中 男形ハ事ニヨリカツラモアリタルガ、皆入レ髪計ニテ、

鉢カネノツキタルモノナシトゾ、然ルニ今ハ侯第ノ婢女ナゾ、狂言トテ爲ル者、地髪ノ飽迄アル

ニ、強テカツラトテ冒ルコト、其本ヲ知ラザル由リ起ル、

寶髻

〔令義解 衣服〕内親王禮服 一品禮服、寶髻謂以金玉飾髻、四品以上、每品各有別制、○中

女王禮服

一位禮服、寶髻、五位以上、每位及階、各有別制、内命婦准此、○中

内命婦禮服

一位禮服、寶髻、○下

〔令集解 二十九〕朱云、各有別制、唯爲寶髻也、一品以下四品以上並同、著深紫衣、以不答並同、无別也、

〔李太白文集 五〕宮中行樂詞八首

小小生金屋、盈盈在紫微、山花插寶髻、石竹繡羅衣、○下

〔延喜式 四十一〕凡純縹縹恐、并寶髻、及紙裙裙恐、剪綵作紐等、莫禁、